

コード No. 18625

**Anti-Human  
Osteopontin (O-17) Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 100 µg

はじめに : OPN の構造は、Glu, Gln, Asp, Asn が、総アミノ酸の半数以上を占めるという特徴的なタンパク質で、中央部には、トロンビン開裂部位が存在します。そのすぐ N 末端側には、細胞接着配列である GRGDS 配列を有し、インテグリン  $\alpha\beta 3$  (ビトロネクチン受容体) と結合を示すことが知られています。OPN は、破骨細胞の  $\alpha\beta 3$  と結合することにより、骨吸収調節を行っている可能性があります。また、CD44 と結合するという報告もあり、がん転移における OPN の関与が示唆されています。

免疫抗原 : Human Osteopontin の N 端部分合成ペプチド

精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製

包装形態 : 1 % BSA、0.05 %  $\text{NaN}_3$  含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び安定性 : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定

安定性 : 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定

使用目的及び使用方法 : 免疫組織染色 1~2 µg/mL にて使用可能  
(ホルマリン固定、パラフィン切片 : マイクロウェーブ処理)  
: ウェスタン・ブロッティング 2~5 µg/mL にて使用可能

特異性 : リコンビナント、Native 両方のヒト Osteopontin を検出可能  
トロンビンで切断されたヒト Osteopontin (N 末側)も検出可能  
マウス Osteopontin とは非交差

参考文献 : 1. Kon S., *et al.* Antibodies to different peptides in osteopontin reveal complexities in the various secreted forms. *J. Cell Biochem* 2000 Jun; 77(3): 487-498.  
2. Kon S, Yokosaki Y, Maeda M, Segawa T, Horikoshi Y, Tsukagoshi H, Rashid MM, Morimoto J, Inobe M, Shijubo N, Chambers AF, Uede T. Mapping of functional epitopes of osteopontin by monoclonal antibodies raised against defined internal sequences. *J Cell Biochem.* 2002;84 (2):420-32.  
3. Yokosaki Y, Matsuura N, Sasaki T, Murakami I, Schneider H, Higashiyama S, Saitoh Y, Yamakido M, Taooka Y, Sheppard D. The integrin  $\alpha(9)\beta(1)$  binds to a novel recognition sequence (SVVYGLR) in the thrombin-cleaved amino-terminal fragment of osteopontin. *J Biol Chem.* 1999 Dec 17;274 (51):36328-34.